

「日本橋川今昔(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「日本橋」は有名だが「日本橋川」はあまり有名ではない。「日本橋は日本橋川に架けた橋」といえば、「ああ、そうか」と思われる方も多いただろう。



「桜の日本橋と日本橋川」

日本橋川は、神田川と隅田川を結ぶ水路である。水道橋駅の少し新宿より、ちょうど東京ドームの真南あたりが起点(水源)で、そこから南東に流れ、日本橋をくぐって、永代橋の西詰で隅田川と合流する。延長はわずか4.8kmだが、荒川水系の一級河川に指定されている。一応「川」の名があるが、江戸時代のお濠工事に伴う、川の流路変更で残った、半人工的な水路である。江戸時代には川岸が多く、各地からの荷の積み下ろしで、大変賑わっていたという。

そんな日本橋川も、現在は実に目立たない、控えめな余生を送っている。川としての景観をほとんど見ることができないからだ。原因は、ほぼ全区間を首都高速の高架線が、覆うように建設されているからである。地図を見ても、首都高速5号線(池袋線)、中央環状線、6号線(向島線)に完全に覆われているのがわかる。私は毎朝、日本橋川に沿って自転車で通勤している。この不遇な川の今昔を、少し研究してみたいと思ったのである。(つづく)

「日本橋川の全流域地形図」 ○が日本橋の位置

△ 起点の神田川分流点 ▲ 終点の隅田川合流点

